

## 伊佐市リモート研修①

### 「3歳児の発達と実践の課題」

一人前意識の3歳児、受けとめながら子ども同士の関係につなぐ

2020. 9. 16 18:30～ 宮里六郎（元熊本学園大学 保育学）

はじめに

1. 自己紹介
2. 全体テーマ「子どもの発達を学び子どもの気持ちに寄り添う」全5回
3. 本日の計画
  1. 3歳児保育の位置と実践課題—受け止めながら仲間につなぐ
  2. 3歳児の特徴—一人前意識
  3. ごっこあそび—つもりが通じ合う喜び
  4. あそびと仲間づくり—ケンカした後もなかよくなれる関係を
  5. まとめと質問
  6. 「今日学んだこと」5行
  7. 次回予定 10/14(水)

「関係に生きる4.5歳児—子ども同士の関係に働きかける保育を」

資料 ①レジュメ「3歳児の育ちと保育実践の課題」

② 事例配布レジュメ「実践記録分析メモ」

## 3歳児の発達と実践の課題

一人前意識の3歳児、受けとめながら子ども同士の関係につなぐ

### I 3歳児保育の位置と実践課題—受けとめながらつなぐ

- 1) 3歳児は、大人—子ども関係から子ども同士の関係に移行する時期
  1. 2歳児保育 保育者と子どもの二者関係中心、保護のタテ関係
  4. 5歳児保育 子ども同士の三者関係中心、対等なヨコの関係
- 2) 「ゆきちゃんの輝きみんなの宝」（3歳児 山下実践）コメント
  - ①園を安心の場に 特別にかわいがることについて☆大人の二者関係の作り直し  
「先生は、泣いても、ケンカしても、いたずらしても、みんなのこと大好きでたまらんのよ」  
「大事にされているゆきちゃんを見ているからでしょうか。ほかの子どもたちのゆ

きちゃんに対する働きかけのなんとやさしくきめこまかいこと」

## ②保育者が受けとめながら子ども同士の関係につなぐプールでの水遊び

1 部屋で遊ぶことを認める 2 プールのある屋上に連れ出すく場の共有>

3 たらいの中で遊ぶ 4 大きいプールで先生と二人水につかる

5 みんなでプールでおはじきを投げて拾う遊び

☆受け止めながら子ども同士の関係につなぐ

・たらい「ぬくもった友達の水の掛け合い」

・おはじき拾い遊び ×自分との関係だけでゆきちゃんを変える

③優しさときびしさの同居、本当のやさしさはきびしさを含むもの

④親との関係づくりー育児書よりステキな子育て仲間を

## II 3歳児の特徴一人前意識

1) 2歳代に身边活動が自立し、「なんでもひとりでできるようになった」「ぼくはもう一人前だ」という一人前意識の成立

→ 唯我独尊の時代 「オレハナー」という代名詞の使用、「お兄ちゃん、お姉ちゃん」へのあこがれ、思いこみの強い聞き方(例 遠足の弁当)

2) 大人との関係が間接化・内面化し、その分ゆとりが生まれ、友達に「関心」を持つ

→さみしがりやの3歳児・平行あそび、友達の前ではほめてほしい3歳児

3) 人に役立つ喜び

①ごっこ遊びの源泉 「超」一人前の「お母さん」と「先生」へのあこがれ

②大人に頼まれることは「一人前」の証、お手伝い大好き3歳児。

「超」一人前のお母さんに頼まれたら「超」の二乗の一人前気分

③「一人前」だから、友達のお世話大好き 当番活動の開始

「ありがとうといわれる喜び」「人の役に立つ存在」「あてにされる喜び」

お手伝い・当番活動ーきちんとやることよりよりも人に役立つ喜びを

4) 意識は一人前、しかし実態は半人前ー意識と実態のギャップ

実態に目をつむり、意識だけを認める

:褒めることよりできないことを点検しない「おおらかな対応」を 評価より感謝で育つ

☆ 揺れ動く3歳児 「イメージはできてもその通りできない自分に気づくー絵」

2歳児のだだコネ、悩み多き4歳児とも違う3歳児の揺れは「変わりのみの早さ」

「明日に生きる3歳児」

## III あそび(ごっこあそび)

1) 理論編

○虚構(うそっこ)と現実の世界の行き来、願望と現実の混合<思考>

○「ごっこあそびでのつもりの共有はなかよしの証」

- 同時にこの時期は、ごっこの花開く3歳児—虚構と現実の行き来
  - ☆事例 やまなみ 江津湖—虚構と現実の行き来
  - ※みたて・つもりあそびからごっこあそびへ
    - ①みたて・つもりの成立 ②みたて・つもりの共有 ③役割分担 ④ストーリー
  - ※ごっこあそびのおもしろさ（一人前の大人への憧れ）
    - ① 今の自分とは別物に変身する喜び
    - ②つもりが通じ合う喜び
- 3歳児後半 ぶつかりあいながらも「なかよしさがしの3歳児」
  - 気のあったもの同士が連れ立って遊ぶ、特定の仲間関係
  - 思春期（友達→親友）幼児期（親友→友達）？
  - 「なかよし探しの時期」から「なかよし優先の時期」（3歳児後半）
    - なかよし優先の当番活動、なかよし優先の鬼探し、微妙な座席の位置
- つもりが通じ合うことはなかよしの証
  - ☆「つもり」はものところがって形がないもの、見えないもの。
  - それ故に、つもりが通じ合うことで心が一つになった実感
  - ※ごっこあそびでつもりの共有を
    - ① つもりが通じ合うには、いっしょの経験、楽しさの共有が土台
    - ② 本物そっくりのままごと道具より、自然の素材の方が通じ合う力が育つ
    - ③ つもりを読みとり確かめるすべを＜保育者の解説＞
    - ④ イメージの世界で遊ぶ絵本の見せ語りを

#### IV 「3歳児のあそびと仲間づくり」

- 1) ケンカしたあともなかよくなれる関係を
  - 自己主張が激しく自分勝手ではあるが、友達に関心がある、しかし友達との関わり方はまだよくわからない、自己主張のぶつかり合いとしてのけんかが多い
- ☆あそびとけんかは隣り合わせ
  - 自分勝手に、相手の意志とは無関係なつもりの世界。つもりのすれ違い
  - いっしょに遊ぶからケンカする。しかし、ケンカするから相手がわかる。相手がわかるからいっしょに遊ぶ。
- ☆対応
  - ①保育者は、事情聴取をして、判決を下し、処分する裁判官ではない
  - ②3歳児は、自分勝手なつもりで行動しているが、動機として悪意はない。しかし結果として、迷惑をかけている。結果だけで判断しない。動機にまでさかのぼり、子どものつもりを読みとりその状況を子どもと一緒に把握する必要がある。
    - ＜子どもの行動には子どもなりのわけがある＞
  - ③身体でのぶつかり合いから口げんかへ ＜言葉で表現させる＞

- ③ことばだけでは通じにくいので、「再現法」を。行為のなかに思考がある
  - ④保育者も入って、どうやったらいっしょに楽しく遊べるかをもう一度考える
- 2) 3歳児後半 ぶつかりあいながらも「なかよしがしの3歳児」  
気のあったもの同士が連れ立って遊ぶ、特定の仲間関係  
思春期（友達→親友）幼児期（親友→友達）？  
「なかよし探しの時期」から「なかよし優先の時期」（3歳児後半）  
なかよし優先の当番活動、なかよし優先の鬼探し、微妙な座席の位置

## 子育てワンポイントアドバイスー3歳児編

新年明けましておめでとうございます。

昨年10月に園長に就任し「ろくろう先生」と呼ばれて早3ヶ月がたちました。

今年は、新園舎建設が大きな課題となると思いますが、ご支援よろしくお願ひします。

今号からは、新米園長奮戦記とともに、年齢別の子育てアドバイスも書いていきます。  
感想などお聞かせ下さい。

### 一人前意識の3歳児ー評価ではなく「ありがとう」で育てる子育てを

子どもは3歳ともなると、自分の身の回りのことが不十分ながら自分でできるようになります。2歳代のお母さんや先生方の苦勞を知ってか知らずか「ボクはもう一人できる、お母さんなんかいなくても大丈夫」という「一人前意識」が生まれます。これまでの大人との直接的な関係が間接化・内面化され、その分心にゆとりが生まれ友達に関心を持つようになります。この「一人前意識」が幼児期の土台となります。

3歳児は「ボクは一人前だ」といばっていますが、ボクより一人前の方が世の中に二人いると思っています。言わずと知れたお母さんと先生です。この二人は3歳児にとってみれば、「超」一人前の憧れの人なのです。だからお母さんや先生にお手伝いを頼まれるのが大好きです。「超」一人前のお母さんや先生に頼まれたら「超」の二乗くらいの一人前意識に跳ね上がってしまうからです。その上に一人前だから自分のことだけでなく友達のお世話もしたがるのです。だから、お当番も大好きです。お友達に「お当番さんありがとう」と言われると、天にも昇る気持ちになります。今までしてもらったことはあってもしてあげて「ありがとう」と言われたことはなかったのですから。人間が他の動物と違うことは人に役立つことが喜びとなることです。子どもだって一人の人間です。小さくても人に役立つことは大きな誇りとなるのです。絵本「しょうぼうじどうしゃ じぶた」（福音館書店）が大好きな子どもたちの気持ちが伝わってきます。

この「一人前意識」を利用しない手はありません。子どもをあてにすることです。子どもに出番をつくることです。そして子どもに「ありがとう」と感謝することです。子どもの人に役立つ喜びを大きく膨らませることです。子どもの誇りを大事にすることです。ただし、

その際大事なことは、3歳児は意識だけ一人前で実態は半人前ということのを忘れないことです。一旦実態に目をつむり、意識だけに目を向けることです。つまり「できる」「できない」を点検しないことです。点検したらできないことだらけです。できないことを指摘したら3歳児の一人前の誇りは崩れてしまいます。お手伝いしようとしたその気持ちだけに目を向け、その気持ちに感謝することです。子どもは評価では育ちません。感謝されてこそ、またがんばろうと前向きになるのです。「ありがとう」という感謝の一言で育つのです。できることを評価して「ほめて育てる」子育てよりも、点検・評価しないで手伝おうとしてくれたその気持ちに感謝する「ありがとう」が言える子育てをしたいものです。

2010. 12. 24 敬愛幼稚園園だより

#### **2014年度入園式 保護者向け挨拶**

ただ今、年少組42名、年中組7名、年長組2名、計51名が敬愛幼稚園に入園いたしました。平成26年度新入園児の保護者の皆さん、お子様のご入園心よりお祝い申し上げます。入園にあたって、(今日お配りいたしました)入園直後の子どもの様子の記録を読み上げさせていただきます。お祝いの言葉に代えさせていただきます。

**入園にあたって一子どもが自分で決めて乗り越えようとするとき、見守る大人の力を！**

★ 卓(11月生まれ)は毎朝お母さんとの別れ際がスムーズにいきません。家を出る時は「早く行こう」とお母さんを促すそうですが、園の近くになると次第に手に力が入ってくるとのこと。表情も何かを思いつめたように曇りがちです。

入園から3週間ほど経ったある日のことです。その朝は出勤途次のお父さんと一緒に登園してきました。卓はにぎりしめていたお父さんの手を自然に離して、ものも言わずに玄関に入ったのですが、靴の紐に手をかけたまま何かを考えるかのように棒だちになりました。

10秒ほどもしたでしょうか、卓はくると振り向くとお父さんと視線も合わさず「バイバイ」と言って再び前に向き、そのままじっと立っています。もしかしてお母さんが頃合いを見て、意識的にお父さんと登園させたのでしょうか。今日はどういうことになるだろうかと思いつながらも、お父さんの方に「どうぞ」とサインを送りました。お父さんは意外そうな表情でしたが、先生の合図もあって、「おう！」と言ってその場を立ち去り、正門の方歩いて行かれました。卓は心配でお父さんが立ち去ったのを感じたようです。ふっと一つ肩で息をしたかと思うとおもむろに靴をはきかえ始めました。保育室に行くと、一度靴を首から外しかけたのに、何を思ったかまた首にかけ直すと玄関に出て行こうとします。でも、どうやらお父さんを追いかける様子はありません。「今どんな気持ちなんだろうな」と察しながら、私は卓にポンと赤玉をぶつけました。

これは子どもが思わず拾って投げたくなる単純なあそびの一つで、この1週間程楽しんでる玉ぶつけごっこです。卓は張りつめていた気持ちがふっ切れたように、ニコッとして玉を拾うと、手を大きく振り上げて先生めがけて投げ返してきました。「よーし、もう一発、

それ！」「ナンダ？ブツケルゾー」と卓も夢中で応戦してきます。数回目、玉を拾いあげたとき、卓は急に表情を変えて立ちつくしました。なんと、立ち去りがたかったのでしょうか、お父さんが正門（13メートルぐらい離れている）のところに立ってこちらを見ているではありませんか。卓はお父さんの姿を見つけたのでした。ところが卓はじっとお父さんの方をにらみすえたとすると「イッチャエ！早くイッチャエ」と、怒ったような泣いたような表情をして、思わずどんとふんでつぶやいたのでした。

おそらく卓の声はお父さんには聞こえなかったはずですが、急に止まった彼の動きとその様子で察したのかお父さんは足早に向こうへ歩き出しました。その姿を卓は上目づかいに見すえていました。やがて姿が見えなくなると、ふっと我にかえったように、握りしめていた玉を投げ始めたのです。後から登園してきた敬太や雅宏たちも仲間入りして、にぎやかな玉ぶつけになりました。 「3歳—つぶやきにドラマを見いだして」（丸尾ふさ、労働旬報社）より

★卓の独り立ちの小さなドラマです。卓はお母さん（お父さん）と離れる寂しさを自分で乗り越えようとして、「イッチャエ！早くイッチャエ」と自分で自分にことばをかけ、自分で乗り越えたのです。先生は「がんばれ」とか「泣かないで偉かったね」とか一言も声をかけていません。ただ赤玉をぶつけただけです。卓は親や先生から励まされて乗り越えたのではなく、自分自身で乗り越えたのです。大人は子どもが自分自身で乗り越える時を見守る力が求められます。

★入園した子どもたちは、これまでの親に保護され世話してもらう世界を離れて子ども同士の対等平等な世界に足を踏み入れます。幼稚園に入園させるということは、親の目の届かない世界で生き始めるということです。子ども同士で育ち合う世界に入ったのです。親も目の届かない不安を乗り越え、「子離れ」の一步を踏み出し、子どもの育ちのドラマを共に見守りましょう。 2014. 4. 11 園長 宮里六郎

#### 園長就任挨拶

6番目に生まれた、種子島生まれの六郎です。

どうぞよろしくお願いします。

この度10月より熊本学園大学附属敬愛幼稚園園長に就任いたします宮里六郎です。

生い立ちを中心に自己紹介をさせていただきます。

1955年、鹿児島県の種子島生まれ。「六郎」という名前の通り6番目に生まれました。幼稚園・保育所には通ったことがなく、いきなり小学校入学。田舎だったので隣近所も遠く、友だちはヤギだけという淋しい幼少期でした。高校3年の時に大分に転校し、大分県立森高等学校を卒業。教師になることを夢見て中央大学文学部教育学科に入学。大学は新聞配達をして卒業するという苦学生でした。教員採用試験が難しそうだったので東京学芸大学大学院教育学研究科に進学。奨学金申請の折、指導教官が推薦状に「極貧につき」と書いたとお

り、貧しい学生生活でした。それもあってか大学院1年生の時に、小学校6年生の同級生と結婚。栄養士の妻との学生結婚でした。

大学院卒業後、6年間國學院大學幼児教育専門学校に勤めた後、23年前に熊本短期大学保育科に赴任しました。現在は社会福祉学部子ども家庭福祉学科に所属しています。この間、子どもが3人生まれ、長女27歳、長男24歳、次女20歳になりました。長男は敬愛幼稚園の卒園生です。年少の時に水上先生に担任して頂きました。宮里家家訓「18歳になったら家を出るべし」により、子どもたちは家を離れて、現在は妻と義父と大人だけのちょっと寂しい3人暮らしです。長女は熊本市内、長男と次女は東京で二人暮らし。

専門は保育学（保育実践研究）です。特に乳幼児期に荒れたりキレたりする子どもの研究をしています。著書に『「荒れる子」「キレル子」と保育・子育て—乳幼児期の育ちと大人のかかわり』（かもがわ出版、2001年）があります。専門の保育論や子育てについてはこれから書いたり話したりしていきます。こんな私ですがどうぞよろしくお願いします。

2010.10

★これまでは「荒れる子」「キレル子」の研究、最近は「攻撃的な親」「傷つきやすい親」などとの「親との関係づくり」にシフトしています。また、過疎地における保育・子育て問題、特に異年齢保育や食農保育をライフワークにしたいと思っています。

## I 新米園長の記—敬愛の子はかわいい、おもしろい！ 楽しんでいきます。

子ども達に「園長先生」と呼ばれることに憧れていました。就任の挨拶をする前にある先生が「子どもたちは園長先生に名前があること知らないじゃないですかね」と言われ、それはまずい名前を覚えてもらわなくてはと「園長先生は6番目に産まれたのでろくろろです。ろくろろ先生と呼んでね。ろくちゃんでもいいよ」と言ってしまったのです。それからは、ろくろろ先生、六ちゃん、ろくちゃん先生と、呼ばれることになってしまいました。キャンパスの向こうからでも大きな声で呼んでくれます。子どもたちのアイドルになったような幸せな日々を送っています。

幼稚園に出勤した日は1組から6組さんまでまわります。子ども達は寄ってきていろんなことを話してくれます。しかもいっぺんに話してくるので誰の話を聞けばいいのか、何を話しているのかわからなくて、まるで実習生のように戸惑っています。1.2組さんの3歳児クラスはほんとに人なつこくおしゃべりしてくれます。お兄ちゃんの話、洋服のキャラクターの話。友だちが話しているとその横から割り込んで話してきます。ひとしきり話を聞いた後「ろくろろ先生もね・・・」と話しかけるのですが、そんなことどうでもいい感じのみんなどこかに散ってしまいます。話を聞いては欲しいのですが、聞きたくはないようです。給食の時もそうです。園長室のお隣の1組さんは全部食べ終わったら見せにきてくれます。何人も何人も見せにきてくれるので、ある日「園長先生も全部食べた、見てよ！」と逆襲したのですが、「あっそう」という感じで誰も取り合ってくれません。3歳児クラスは自己中

心さがかわいいです。

5, 6組さんの5歳児クラスは結構おとなです。下手にご機嫌取りをしていると、何バカなこと言ってるのという感じで相手にしてもらえません。金曜日給食をいっしょに食べました。クラス担任が「ろくろう先生と食べたいグループ手を挙げて」と言うと、「イヤだ私たち食べたくない」という女の子のグループもあってちょっと傷つきます。でもじゃんけんには参加してくれました。給食食べながらいろいろ話してくれます。多いのはやっぱり家族の話です。なぜだか最後はクイズになります。「私の妹の名前は何でしょう?」、わかんないよそんなことと思いながらも、花子だの、実穂子だの適当に答えるとブーと言っていますが、適当なところで教えてくれます。クイズをするというより教えたいようです。ある女の子「私のお母さんの昔の名前は何でしょう?」。結婚する前の旧姓当てクイズのようです。びっくりしました。5歳児の女の子は結婚したら名前が変わるということをすでに知っていたのです。小さなおとなです。あまり子ども扱いすると失礼だなと心新にしました。しかし隣の男の子に同じことを質問すると何それという感じで全く理解していません。男女の違いも大きいようです。

3. 4組さんの4歳児クラスは微妙なお年頃です。運動会で何するのか尋ねても「秘密」だそう教えてくれません。負けじとヒント下さいと攻めると「上にヨがつくもの」それでもわからないのもう一回ヒント下さいとお願いすると「よさこいソーラン」と答えを言ってしまう。秘密にすることの楽しみと早く教えてあげたいという気持ちの両方がいり混じっているのでしょうか。考えきる力はまだ育っていないようです。3歳のかawaiiさ5歳のかしこさのはざままで揺れ動いている4歳児です。

ほんとに短い時間ですが、子どもってかわいいな、イヤうちの子ども(敬愛の子ども)が一番かわいい、親ばかではなく園長バカになっています。しかしクラス担任の先生達は、私のように数分・数人のしかも都合のいいところだけかかわっているわけにいきません。丸一日1年間責任を持って子どもとかかわっています。その大変さも少し感じています。

園長 宮里六郎 2010. 11. 26記